

「

BELIEVE



2012
秋号
VOL.42

」

●電子カルテシステム導入

●シリーズ 情熱の白衣・看護師レポート



人間ドック・健診施設機能評価



光と遊ぶカエデの葉
きらきら光って
たのしそう
さわさわ話す声もする
友達沢山、いるのかな
ぱらりと落ちて手の中に
もうすぐ冬になるんだね
大事に大事に持つてるよ

光と遊ぶカエデの葉 岩崎 菜摘子 ・制作年/2004 ・素材/ペン ・148×100mm

彼女にとって絵を描くことは、心の循環をしてくれる欠かせないこと。
「光と遊ぶカエデの葉」について、制作の想いを詩にしたためています。
(大阪赤十字病院は作品掲載を通じてバリアフリーを推進しています)

大阪赤十字病院の基本理念

わたくしたちは人道・博愛の赤十字精神に基づき
すべての人の尊厳をまもり
心のかよう高度の医療をめざします

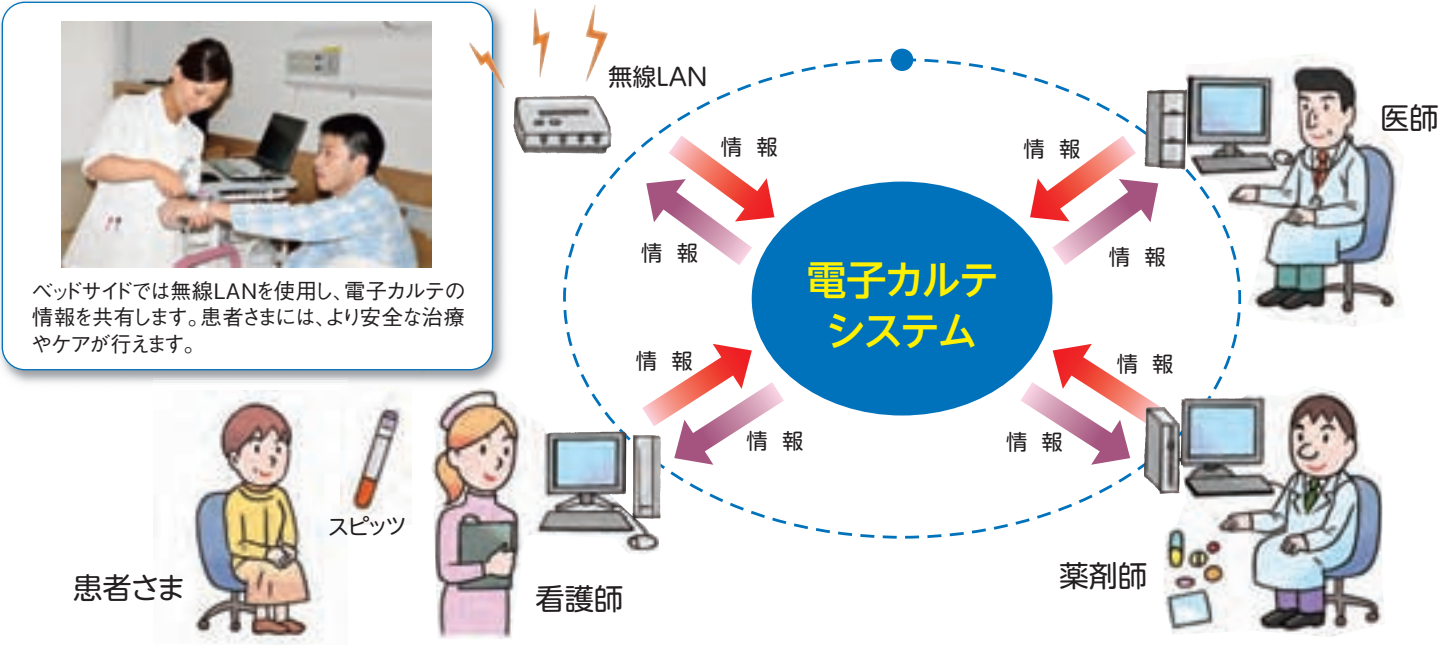
患者さまの権利

1. だれもが、一人の人間として、人権がまもられる権利を尊重します
2. 良質かつ適切な医療が、公平に受けられる権利を尊重します
3. 医療についての情報や治療上の説明を受ける権利を尊重します
4. 自分自身の治療について、医療行為を選択する権利を尊重します
5. プライバシーがまもられる権利を尊重します

カルテが新しくなります

電子カルテシステム導入

当院では、医療情報の共有化、医療の質と安全性の向上、患者さまへのサービス向上などをめざし、平成25年1月に電子カルテシステムを導入します。



●電子カルテシステムとは

これまで「紙」カルテと「紙」伝票を用いていたさまざまな診療記録や診療の指示（オーダー）などを、電子化された情報で伝送し、それらを電子情報として保存・管理する仕組みのことを「電子カルテシステム」と言います。すでに多くの病院で、このシステムが導入されています。診療においてこれまでの紙のカルテでの運用と大差がないように思われるかもしれませんが、「電子カルテシステム」の導入を機に、診療体制のあり方や診療内容および質が大きく変化すると言われています。

●導入によるメリット

電子カルテには、さまざまなメリットがあります。そのなかでも代表的な機能を紹介いたします。

①医療情報の共有化

これまでの紙カルテは、入院、外来とも各科で1冊ずつあり、さまざまな部門で使用するためにカルテを取り寄せる必要がありました。電子カルテでは専用のパソコンを通じて、医師・看護師・薬剤師などのスタッフ間で医療情報を共有できるようになり、患者さまの最新の状態がリアルタイムに容易に把握できます。したがって、職種を超えたチーム医療に貢献するツールとなるのです。

電子カルテの文字はキーボードで入力しますので、誰が見てもわかりやすく正確な医療情報を共有することができます。

②医療安全の向上

薬や検査などの指示を伝票へ転記する必要がなくなりますので、転記ミスによる事故を防止できます。用量以上の薬を処方した場合や、他の薬との併用ができない薬を処方した場合には、警告が自動表示されるため、スタッフによるチェックに加え、システム上でのチェックが可能となり、より安全性が高まります。

電子カルテ導入後は、入院の際にはバーコード付きリストバンドによる確認・点検作業も導入されます。入院時の注射・点滴や検査時に、バーコード認証によるチェックを行うことで、患者取り違えや誤った注射・点滴の実施を防止します。

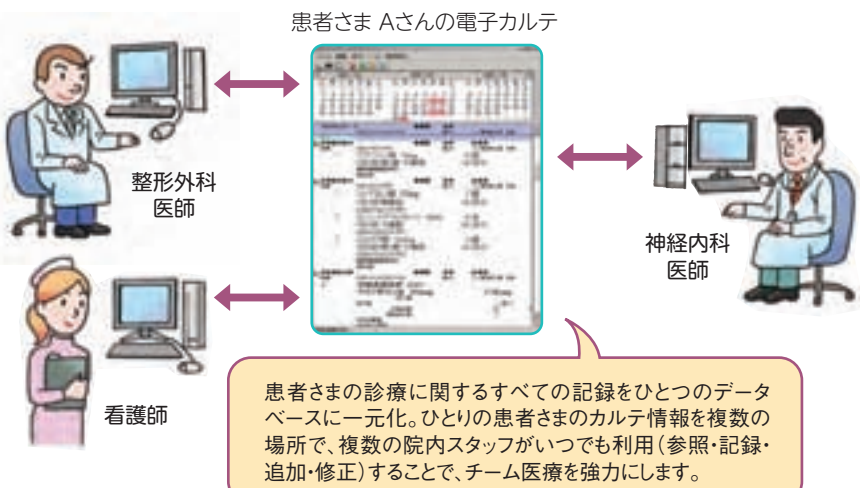
③患者さまへのサービス向上

医師が処方、注射、検査、処置等の指示・実施を電子カルテに入力すると、瞬時に各部門と会計窓口へ情報が伝わり、会計での待ち時間が短縮されます。

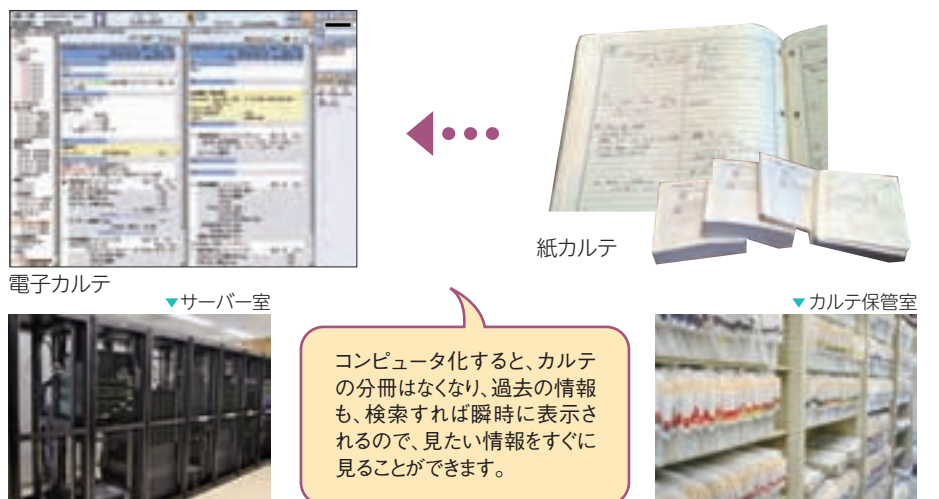
導入後、半年から1年以上が経過し、患者さまの診療データが蓄積された後には、再来や予約での受診時にカルテの搬送が不要になることから、待ち時間の短縮にもつながります。

電子カルテは電子媒体で一括管理するため、患者さまの大切な医療情報を長期間にわたり安全に保存することが可能です。

■複数の場所で、同じ患者さまのカルテ情報を共有!



■診療スタイルの変化



ハイチ共和国派遣報告 看護師2名を派遣、 ハイチ地震の 復興支援活動レポート!



- 首都 / ポルトープランス
- 面積 / 27,750km²
- 人口 / 約1,000万人

2010年にハイチ共和国でマグニチュード7.0の大地震が発生。約30万人が死亡し、

被災者は国民全体の4分の1にあたる230万人に及びました。西半球で最も貧しい国ハイチでは、被災者の生活再建は長期に渡ると予測されています。大阪赤十字病院では、この大地震の復興支援として2名の看護師を長期派遣し、保健医療活動と水・衛生事業のための援助を行っています。

以下、今年2月から1年間の予定で現地に派遣されている池田載子看護師長からの活動報告です。

私は大阪赤十字病院より、国際赤十字赤新月社連盟を通して、震源地に最も近いレオガンという町に派遣されており、8名の外国人スタッフ、100名以上の現地スタッフが活動し



蚊帳配給での受け取りの記録受付

ています。その中で私は保健医療活動の責任者として、地域住民に対して健康に関する知識や救急法の普及活動を行っています。

活動の主役は、赤十字のボランティアさんたちです。まず地域住民の中からボランティアさんを選出してもらい、各自が隣近所の10~15戸の家庭を担当し、健康に関する普及活動を行います。

最初に、ボランティアさんに自分たちの地域の地図を描いてもらい、健康問題の原因となるような場所(例えば、トイレがないため、サトウキビ畑で排泄しているなど)や災害時の危険個所などを書き込み、問題がどの場所にあるのかわかるような地図を作ってもらいます。さらに、ハリケーンなどの災害やコレラやマラリアなどの健康問題が、1年間を通してどの時期に起こりやすいのかといった、季節カレンダーを作成してもらいます。そうすることで、ボランティアさんたちの「自分たちの地域」の「健康問題」に対する関心を高めます。次に、それらの問題をどうやって予防、あるいは軽減するかについて話し合いを行い、その方法をボランティアさんたちがそれぞれの地域で広めて行きます。



蚊帳を受け取る子ども

ボランティアさんたちは、戸別訪問や小グループでのコレラの予防や母子保健などの啓蒙活動も行っています。自分たちでラジオ番組を立ち上げて活動している地域もあり、その成果は徐々に出てきています。多くの皆さまからいただいた善意を種として、ハイチで豊かな健康という実を实らすことができるよう、今後も活動を行っていきたいと思います。

■患者さま安全管理



●導入によるデメリットへの対策

電子カルテシステムの運用には、注意しなければならないこともあります。院内のごくからでも情報を見ることができるといった利点は、運用の仕方によっては欠点にもなります。つまり安易な使い方をすれば、個人情報等の機密情報が外部に流出する危険性が高まります。

当院では、これまでも個人情報保護・管理については研修会を通じて、職員に周知徹底するなどの取り組みを行っています。電子カルテシステム導入により、個人情報の取り扱いにはこれまで以上に慎重な対応が求められることから、対象となるスタッフに対して二層の注意喚起を行い、情報流失防止に万全を期すこととしています。加えて、企業等においては外部からの「コンピュータウイルス」が原因により、システムの損傷、情報の流失事例が発生していますが、当院では、運用により外部から電子カルテシステムへの接続を禁止するとともに、各端末からデータを抽出できないよう、システムの制限を設けます。さらに電子カルテシステムが、コンピュータウイルスの影響を受けていないか常に監視し、万が一、侵入を確認した場合には、拡大を防止することもすまやかに除去するなど、「コンピュータウイルス」による感染の影響を最小限に抑えることとしています。

●患者さまへのお願い

電子カルテシステム導入に際しては、患者さまがこれまで通り安心して治療を受けていただくことを最優先に準備を進めておりますが、システム稼働当初は患者さまにご不便をおかけすることもあるかもしれません。円滑な病院運営に最大限努めてまいりますので、何卒ご理解・ご協力をお願いいたします。

お知らせ



電子カルテシステム導入にあわせて再来受付機、自動精算機の更新を行います。現在、自動精算機は2台がクレジットカード対応可能ですが、更新時には6台に増やし、患者さまの利便性を高めることとしています。



自動精算機

立花 隆夫

皮膚科 部長



TAKAO TACHIBANA 8月28日、岡山県生まれ。関西医科大学卒業後、京都大学皮膚科に入局。福井赤十字病院、京都大学皮膚科を経て、福井赤十字病院皮膚科部長に就任。皮膚科における手術実績を残す。京都大学皮膚科で講師、滋賀医科大学皮膚科で准教授に。平成23年当院皮膚科部長に就任。手術を行う皮膚科医療の環境整備に邁進している。

不得意な状況もカバーできる柔軟性を。チームプレーの強さを身につけていきたい。

何を得意としているか。それが病院の強みになる。

「上に立つ者の一番の仕事は、下の者の成長を妨げないこと」。

立花医師が心している言葉である。この言葉の世界を実感したきっかけは、京都大学の皮膚科入局時のこと。「当時の京都大学の教育風土は『自分の好きなことをしなさい』というものでした。たとえば私が教えた後輩がその通りにできたとして、『リトル立花』はできませんが、私を越えられないですよ。医学には型にはめてしまう教え方が多いのですが、良い所がひとつでもあるならば、その一点を伸ばすほうがいいし、悪い部分はそれが得意な人がサポートする。そういう環境でやってきたんです」とはいつても、好きなことをするということ、自分で行動しないと取り残され

るということ。医師であった祖父。父を持ち、小さい頃から「医者になる」と思っていた立花医師だからこそ、好きなことを見つけ、行動するという環境が合っていたのだろう。

ところで、皮膚科では手術も行うっていることを知る人は少ないのでは？「皮膚科では手術も行います。当院に来て、『外科手術をするの？』と驚かれ、こちらがビックリしました。地域医院と連携を図れば、より広い範囲で必要とする患者さまに手術ができます。将来は質の高い医療を提供できる、手術センターなる拠点を立ち上げたいと思っています」。

いろんな長所が集まるチームプレー。見ていて気持ちがいいんです。

立花医師の休日は、スポーツ観戦と飲み屋巡り。特に野球観戦が好きで、高校野球が行われる甲子園に行くのは毎年恒例のこと。

「チームプレーによるスポーツが好きですね。1対1のスポーツは、勝負のためには相手が悪手なところをつく

プレーをします。二方チームプレーはそれぞれ選手のいいところを伸ばし、プレーをします。そうするとチームプレーで勝負するスポーツのほうが見ていて気持ちがいいんです。そして帰りに美味しい酒を飲む。鶴橋や京橋のディーブな飲み屋街を探して行くのが楽しくて、ガイドブックやインターネットで見つけたお店に行ったりもしますね」。



医局時代の後輩と暑い甲子園へ高校野球観戦。この日の観戦後も、飲み屋に繰り出したそう。

立花医師が率いる皮膚科も「自分の強みがあるか」と自己判断できるように、若手医師の長所を伸ばすスタンスをとっている。「何がしたいかと聞けば『手術をした』という希望が多いのですが、何をしたいか」ということ、何ができるかとは違います。自分の適性を判断できることが大事だと思えますね。」皮膚科に集まる個性を活かし、どれだけ多くの患者さまを助ける医療(チームプレー)に展開していくのか、楽しみ

である。

看護師レポート◆42

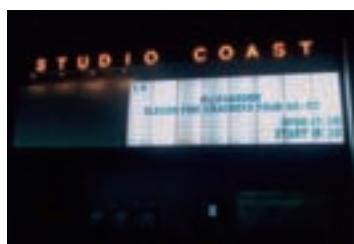


患者さまから学んだこと 患者視点の経験を活かして 谷口 香織

看護学校に入るまでは何をやりたいたかがわからず、リハビリ療法士など医療系の仕事をしようかと漠然と思っていました。看護学校に入ったものの、学生生活を送る中で「本当に看護師になりたいのかな」と実感がありました。

ありませんでした。そんな私が本気で「看護師になりたい」と思ったのは、患者さまと話すことが楽しいと思えた看護実習の体験からです。看護学校の実習の最後に受けもったのが、終末期の患者さまでした。その方は手を動かすのも辛いのに、「自分の体で看護を学びなさい」と言ってくれました。声をかけていただき、多くのことを学ばせてもらった分、がんについても勉強して、恩返ししたいと思ひ、そのときがん専門の病院に入職しようと思ひました。

現在は外科病棟の担当です。術後の患者さまや緩和ケアを行う患者さまがいますが、体が辛いという訴えに対して、私ができる対応は、聞くことです。患者さまの痛みを和らげるには、患者さまの声をどう聞けばいいのか、その難しさを痛感しています。好きなことは、音楽を聴くこと。ライブハウスにもよく行きました。演奏している人たちを見てみると、「みんなに元気を与えられるってすごい」と感動して、「私もがんばろう」という気持ちになります。散歩のときにも音楽を聴きながら、何時間も歩いたりします。音楽は私にとって欠かせないものですね。



よく足を運んだライブハウス。「仕事で疲れたとき、落ち込んだときに、元気をもらいに行っていました」。

看護師になつて3年間は「楽しい」思い出ばかり。そして辛いことも経験し、9年が過ぎました。体調を崩して2カ月ほど休養したときには、患者さまの視点を学ぶ経験もできました。2カ月間も仕事から離れたので、また以前のように働ける心配でした。

今は後輩もでき、教える立場でもあります。良い看護を行うための指導のあり方、また自分の思いを言葉にして伝える力を身につけて、協力し合っている看護を見つけていきたいです。

KAORI TANIGUCHI

11月1日、大阪府生まれ。日本パプテスト看護専門学校卒業。同年4月にがん研有明病院に就職し、がん患者さまと向き合う看護を経験する。2010年より大阪赤十字病院に就職。現在外科病棟にて看護にあたっている。

日本の行事とお食事

栄養管理課 管理栄養士 大石 麻衣

今年度は、日本の行事と食事の関わりを、ご紹介しています。今回は冬の風物詩を先取りして、冬至についてお話ししたいと思います。

第3回 冬の行事食

冬至

太陽が軌道上の最も南に来るときで、夏至とは反対に、夜が最も長く昼が短い日のことをいいます。南中の高さも1年で最も低くなることから、「太陽の力が一番衰える日」と考えられてきました。さらに、この時期は食物が枯れ、動物は冬眠してしまつたため、食糧が手に入りにくくなります。そのため、無病息災を祈る行事として、冬至が発展したといわれています。

冬至といえば柚子湯。柚子湯に入ると、風邪をひかないと言われています。柚子に含まれる芳香成分(リモネン・リモニン・シトラール)が、新陳代謝を活発にして血管を拡張させ、血行を促進するため体が温まり、風邪もひきにくくなるようです。またビタミンCが豊富で、抗酸化作用(病気の原因となる活性酸素を消去する働き)が期待でき、肌をスベスベにする美肌効果もあります。



さて、かぼちゃを食べるのはなぜでしょうか？昔の日本では冬至の頃になると秋の収穫祭も終わり、食べられる野菜がほとんどなくなつてきます。かぼちゃは夏野菜ですが、栄養もあつて冬まで保存がきくため特に重宝されており、冬を健康に過ごすための生活の知恵でもありました。かぼちゃの栄養成分の特徴は、なんとこれも力コロンを多く含んでいます。カロチンは体内でビタミンAに代わつて、肌や粘膜を丈夫にし、感染症などに対する抵抗力をつけてくれるため、柚子と同じように無病息災を期待して食されてきました。今年の冬至は、12月21日。今は保存しなくても、季節が日本と逆のニュージーランドなどから、輸入物のかぼちゃが年中豊富に入つてきます。先人の思いをせながら、ぜひ冬至の日にはかぼちゃでたっぷり栄養をつけて、柚子湯でリラックスしてみませんか。

目薬

目薬のさし方と保管上の注意

薬剤部 濱津 頼子

花粉の時期や長時間のパソコン作業で目が乾燥したときに、目薬をさす方も多いのではないのでしょうか。そこで今回は、正しい目薬のさし方と保管方法を説明したいと思います。

目薬のさし方

- 1 点眼前は、手をきれいに洗つてください。
- 2 頭を少し上に向け、目は天井を見てください。下まぶたをひいてもかまいませんが、上まぶたは触らないようにご注意ください。
- 3 目薬を5分くらい、目から離しててください。まぶたを閉じたまま容器の先端が触れ、目薬の汚染を防ぐためです。
- 4 目薬を1滴さしませよう。1滴以上さしても目の中に入りきらず、あふれ出てしまつたため、さすのは1滴で十分です。
- 5 目薬をさした後は、1分ほど目を閉じてください。まぶたを動かすと、目から涙が排泄されてしまいます。すると、目薬も涙とともに涙点と呼ばれる排出路から排出されてしまい、目薬の効果が少なくなつてしまいます。また、こぼれた目薬はまぶたの上からおさ

目薬の保管上の注意

- 点眼後は、目薬のふたはしっかりと閉めてください。
- 添付の袋がある場合は、袋に入れて保管してください。
- 直射日光を避け、なるべく涼しいところに保管してください。冷蔵庫で保存してもかまいませんが、凍らせないように注意してください。冷暗所保存などの指示がある場合は、その指示に従つて保存してください。
- 適切に使用、保存した場合の开封後の目薬の使用期限は、医療用点眼薬で約1カ月、一般用点眼薬で約2週間です。
- 浮遊物や濁りの出た目薬は、使うのをやめてください。不安な点や不明な点がある場合は、いつでも気軽に相談ください。

がんサポートチームからのお知らせ vol.16

がんによる痛みの治療薬

薬剤師 東海林 絵美

今回は、がんによる痛みの治療薬の基本的な考え方である「WHO方式がん疼痛治療法の基本原則」と「WHO3段階除痛ラダー」についてご紹介します。

WHO方式がん疼痛治療法の基本原則

- 1 投与経路は、患者さまにとって管理しやすい内服薬を優先的に選択します。
- 2 薬の作用時間が途切れないように、投与間隔を決めます。特にオピオイド(医療用麻薬)では、毎食後という指示ではなく、「12時間ごと」「〇時と〇時」など均等な時間間隔で指示することが重要です。
- 3 3段階のラダーにしたがって、痛みの強さに応じた効力の痛み止めを選びます。
- 4 オピオイドによる鎮痛では患者さまごとに必要量が大きく異なるため、効果判定を行いながら徐々に薬の増量を行います。
- 5 以上の4原則を守つた上で、細かい配慮を行います。

WHO3段階除痛ラダー

基本原則の③にもあるように、鎮痛が不十分な場合には、「WHO3段階除痛ラダー」にしたがって段階的に治療薬のレベルを上げていきます。

■ 1段階：NSAIDs(アセトアミノフェン)
これは一般的な解熱鎮痛薬です。2段階、3段階の薬と

一緒に使うことも多いです。NSAIDsの副作用には胃痛、障害、腎障害があります。

- 2段階：軽度から中等度の痛みを使うオピオイド
 - 3段階：中等度から高度の痛みを使うオピオイド
- オピオイドの副作用には眠気、吐き気、下痢があり、眠気と吐き気は徐々に慣れていきます。吐き気と下痢は、予防の薬を使用します。大事な点は、「段階的に治療薬のレベルをあげる」ということも、すべて第二段階の薬から始める必要はなく、初期の段階でも痛みの強さが中等度以上であればオピオイドから開始してもかまいません。

薬剤師は、薬について患者さまが正しく理解し、正しく使用できるよう説明を行います。特にオピオイド(医療用麻薬)について不安を抱く患者さまは多く、安心して使用できるように、副作用などを詳しく説明します。また患者さまから、使用している痛み止めが効いているか？副作用は出ているか？他に使用している薬と相互作用はないか(相性は悪くないか？)などをお聞きします。患者さまがより安心して治療を受けられるよう、他のスタッフと話し合いサポートしていきます。

当院では、がん全般に関するさまざまなご相談をお受けしています。

がん看護相談室 TEL:06-6774-5192 FAX:06-6774-5126 syakaika@osaka-med.jrc.or.jp 火・金曜14:00~16:00(予約制) / 本館2階・8番窓口(随時)

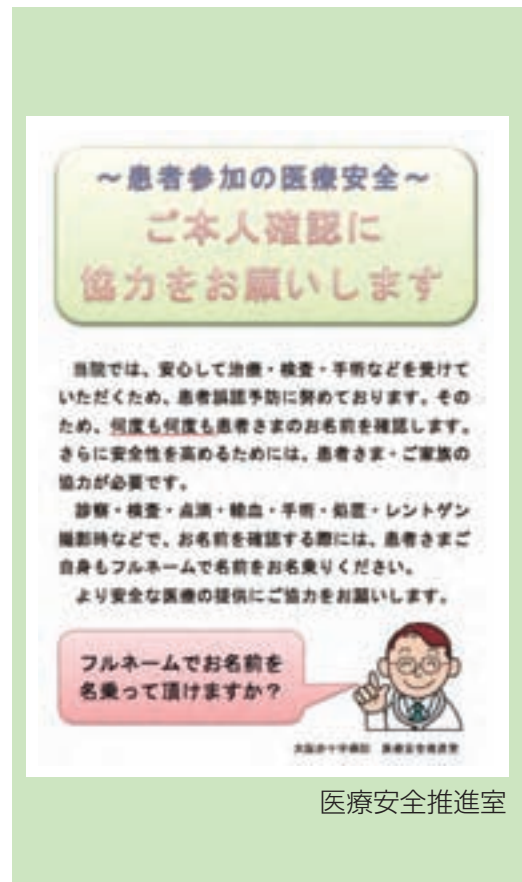
患者参加の医療安全

いま、医療現場では「患者参加の医療安全」が注目されています。これは、特別なことではなく、患者さまこそ医療の当事者であり、安全で適切な医療を受ける権利を持つと同時に、自身の健康と安全をお守りいただくための責任もあるという考えに基づくものです。

医療事故の原因は、些細なことがほとんどです。過去には、ある病院で2名の男性患者を取り違えて手術し、手術が終わるまで間違いに気づかなかったという事故が発生しています。患者さまへ及ぼす影響の大小を問わず、このような名前の確認不足などによる取り違え事故は、医療提供のさまざまな場面で発生しており、けっして珍しいことではありません。

当院では、患者さまの医療への主体的な参加を促進することをめざし、本人確認にご協力をお願いしています。診察・検査・点滴・輸血・手術・処置・レントゲン撮影時などで、お名前を確認する際には、患者さま自身（もしくは付き添いのご家族さま）もフルネームで名前をお名乗りください。そうすることで、私たち医療関係者は、より確実性の高い医療を、自信を持って提供することができます。また、患者さまにとっては、提供される医療に対して、安心や信頼を感じていただけるものと思います。

「患者参加の医療安全」は、本来医療の現場がすべきことを、患者さまに押し付けようとするものではありません。また、医療現場の責任を、患者さまに転嫁しようとするものでもありません。患者さま、医療者がともに必要性を理解した上で、『事故を防ぐ』という明確な意思を持って医療に参画する、それが本来の医療安全のあるべき姿ではないでしょうか。そして、患者さまと良い信頼関係を築きながら、心のかよう高度の医療の提供をめざしていきたいと考えています。



医療安全推進室

REPORT 開催日／2012年8月5日(日)

災害 防災教育

小学生とご両親を対象とした、体験型の防災セミナーを開催しました。

大阪赤十字病院は、大阪府に指定された災害拠点病院であると同時に、日本赤十字社の国際医療救援拠点病院でもあり、国内外の災害、紛争へ多くの職員を日常的に派遣していますが、一方で大阪で災害が起こった場合についても、府下の防災機関と共同して、さまざまな装備やシステムを作っています。

しかしながら災害というのは、常に既存の備えを超えるものであり、防災機関や病院だけがいくらがんばってもすべてに対処することは不可能です。そこで重要になってくるのが、住民の皆さま一人ひとりの防災に対する意識です。

いざというときに何をすればいいのか、どう動けばいいのかを普段から知っているのと知らないのでは雲泥の差があります。

この考え方から、当院では3年前より、毎年夏休み期間に院内を開放して、小学生とご両親を対象とした体験型の防災セミナーを行っています。これによって、防災機関や病院と地域住民の方々が一体となって災害に向かうという体制ができることを目標としています。

今年は8月5日(日)に、大阪市消防局、大阪市水道局、陸上自衛隊、天王寺区役所などが院内敷地ですさまざまな防災グッズや車両を展示し、病院内では本院職員が応急手当の方法や、AEDの使い方のレクチャーをしたり、災害発生時に何をしたらよいかの講義を行ったり、模擬避難所や仮設診療所を設営したりと、盛りだくさんの内容で、約250名の親子が参加しました。

来年は8月4日(日)に行いますので、ご興味のある方は病院までお問い合わせください。





Event 「天王寺区民まつり」に参加しました

9月9日(日)、五条公園グラウンドで行われた第38回天王寺区民まつりに参加しました。「地域とのつながり 地域に溶け込んだ病院」をコンセプトに、参加して5回目。今回も「応急手当体験コーナー」と銘打って、心肺蘇生法(人工呼吸・心臓マッサージ)の手技やAEDの使用方法について説明しました。

コーナーを訪れた大半は子どもたち。お父さんやお母さんに連れられて熱心に説明を聞く様子や、友達同士で参加するなど、さまざまでした。一生懸命実演



している子どもたちに「おかげで助かったよ」と声をかけると、照れくさそうな満面の笑みを返してくれたのが印象的でした。

これからも地域の活動に参加をし、地域に根付いた病院づくりができればと思っております。

Event 「セプテンバーコンサート」を開催しました

9月9日(日)午後2時から、本館2階受付ロビーで恒例の「セプテンバーコンサート」が開催されました。

第1部では当院薬剤師と元職員によるピアノ・エレフトラン演奏、そして第2部ではアンサンブル「Angela」(アンジェラ)によるピアノ連弾やマンドリンギターの三重奏、そしてコーラスが披露されました。

会場には250人を超える患者さまや付添いの方々などが来場され、曲ごとに温かい拍手が響きました。



次回は、12月9日(日)に「クリスマスコンサート」を開催いたします。お楽しみに!

Seminer 「第5回 市民健康講座」を開催します テーマ:骨粗しょう症について

第5回市民健康講座は、「骨粗しょう症」について取り上げます。日本国内の患者数は高齢女性を中心に年々増加しており、自覚症状のない未受診者を含めると、推計で1,100万人にのぼり、そのうちの8割は女性です。今回は、「骨粗しょう症」についての予防、治療、薬の飲み方や食事面で気をつけることなどを中心にお話しします。お気軽にご参加ください。

- 開催日時/平成24年11月10日(土) 14:00~15:30
- 開催場所/大阪赤十字病院 4階 講堂 ●参加費/無料
- 募集人数/60名(先着順・事前申し込みが必要です)
- 募集期間/10月22日(月)~11月5日(月)
- お申し込み/大阪赤十字病院 2階⑥番窓口(受付時間/平日8:30~17:00)
- お問い合わせ/医療社会事業課 06-6774-5192(直通)

News 病院のアート作品が大賞を受賞!



高く上がる霧

今年1月と2月、当院で大阪府主催の「おおさかカンヴァス推進事業」により実施されたアート作品「霧はれて光きたる春」(ハナムラ チカヒロさんによる作品)が、このたび日本空間デザイン協会主催の「空間デザイン大賞・日本経済新聞社賞2012」を受賞しました。

この賞は、世界最大規模の空間環境系のデザイン賞で、その前身である「ディスプレイデザイン賞」は、1966年に創立されて以来46年にわたり、空間におけるコミュニケーションデザインの創造をめざす優秀なデザインが顕彰されています。

Event 「第97回 二科展」開催中!

10月30日(火)~11月11日(日)まで、大阪市立美術館において二科展が開催されます。97回目を迎える今年の二科展では「赤十字150年」をテーマとしたポスターを全国公募し、入選された作品約70点が展示されます。お誘い合せの上、ぜひ足をお運びください。



国立美術館での二科展の様子

- 開催日時/平成24年10月30日(火)~11月11日(日) ※休館日:11月5日(月)
- 会場/大阪市立美術館
(大阪市天王寺区茶臼山1-82 TEL:06-6771-4874)
- 料金/大人900円、高大生600円、中学生以下300円

Seminer 「第3回 糖尿病オープン教室」を開催します テーマ:生活習慣の見直しが糖尿病を予防する

糖尿病は、発症予防、早期発見・治療、合併症の予防が重要です。良くない生活習慣を改めること(食生活の改善、運動不足の改善、肥満の解消など)は、糖尿病の発症予防につながります。このオープン教室の参加を機会に、日頃の生活を見つめ直してみませんか? 皆さまの参加をお待ちしております。

- 開催日時/平成24年11月14日(水) 13時30分~15時30分
- 開催場所/大阪赤十字病院 1階ロビー ●参加費/無料
- お申し込み/不要(直接会場へお越しください。)
- 内容/【講演】①武呂 誠司(大阪赤十字病院 糖尿病・内分泌内科部長)
「糖尿病と透析予防」
②高嶋 法子(大阪赤十字病院 管理栄養士 糖尿病療養指導士)
「糖尿病と食事のお話」
③堂川 冴子(大阪赤十字病院 管理栄養士 糖尿病療養指導士)
「知っていますか? 飲み物の落とし穴」
- 糖尿病療養指導士による血糖測定、血圧測定など
- 医師、糖尿病療養指導士による健康生活相談
- お問い合わせ/大阪赤十字病院 2階⑥番窓口(受付時間/平日8:30~17:00)
担当:医療社会事業課 06-6774-5192(直通)

編集後記

9月中旬、北海道の道南を旅行しました。平年ならば、この時期最高気温20度といわれる地ですが、連日30度を記録し、観光する身にはかなり大変でした。しかし、この暑さの中でも紅葉は始まりつつありました。まず、最初に紅葉しだすのは『ななかまど』だとか…。厳しい暑さを乗り越えた木々の紅葉は、一段と色鮮やかだと言います。人生もそれと同じく、苦しみや苦勞を乗り越えれば、そこには豊かな実りが待ち受けているのではないのでしょうか。(M.T)



外来診療担当表

平成24年10月1日現在


午前診療 午後診療

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
消化器科		津村	中島	邊見	西島	齋藤	
		松田史	金坂	圓尾	喜多	幡丸	
		関川	岡部	大崎往	米門	圓尾	
		大原		坂本	竹田		
		津村	中島	邊見	井口	齋藤	全て予約制
		松田史	金坂	丸井	奥	幡丸	
		関川	岡部	福原	米門	佐田	
消化器科(肝臓外来)		喜多	大崎往	木村	那須	西川	午後は予約制
糖尿病・内分泌内科		米光	松尾	金井	武呂	南部	午後は予約制
		南部	金井	武呂	隠岐(予約)	米光	
血液内科 (移植外来)		藤井	水谷	中村	金子	平田	全て予約制
		金子	平田	通堂	水谷	通堂	
		辰巳	水谷	松本	金子	平田	
		豊岡	稲田慎	通堂	豊岡	岩井	
					藤井		
					馬場	中村	
リウマチ・膠原病内科		村上	村上	村上	日和	伊藤	全て予約制
腎臓内科		菅原	川西	大崎啓	小川	越川	全て予約制
		越川	小川	菅原	川西	菅原	
		菅原	川西	大崎啓	小川	越川	
		越川	小川	菅原	川西	大崎啓	
循環器科		担当医	田中	伊藤	長央	福地	全て予約制
		林	伊藤	稲田司	牧田	稲田司	
		林	田中	伊藤	長央	福地	
不整脈科		内山	牧田		牧田		全て予約制
心臓血管外科		中山(予約)	中山(初診)		中山(初診)		全て予約制
小児科		(血液外来 藤野)	(リウマチ・アレルギー外来 住本)	葭井	(腎臓外来 住本)	(血液外来 朴)	血液外来は予約・紹介のみ
		(神経外来 奥)	竹川	(アレルギー外来 肥田)	坂本	金岡	
		(アレルギー外来 安西)	瓦林	田中碧	正岡	新居	
		(血液外来 藤野・朴)	(血液外来 朴)	(血液外来 藤野・朴)	(血液外来 朴)	(血液外来 朴)	
小児外科		松川		松川			
外乳腺外科		福田	片岡	細木	河野	中島研	注)緩和ケア外来の診察は2Fのがん看護相談室となります。
		花房	金谷	中島康	有本	岡田	
		山浦	有本	鈴木	岡村	金澤(初診)	
		露木	山口	奥村	(乳腺新患 露木)	川田	
		福田	片岡	細木	萩原	中島研	
		花房	伊藤	中島康	有本	馬場園	
		山浦	(再診・予約 金澤)	鈴木	河川	(再診・予約 金澤)	
整形外科		渡邊	鈴木	坂本	大浦	富原	専門外来は予約のみ
		富	(第1-3-5週 福田 第2-4週 坂本)	堤	坂口	正本	
		富	(股関節外来 大浦)	福田	(スポーツ外来 鈴木)	(脊椎外来 渡邊)	
リハビリテーション科		好井	好井	好井	好井	富原	
脳神経外科		担当医	山下	担当医	山下	朝日	予約・紹介のみ
		担当医	朝日	担当医	西村	米田	
		担当医	土井	担当医	吉岡	担当医	

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
神経内科		金田	峠	中村	鈴木	加藤	全て初診のみ
		鈴木	加藤	金田	加藤	鈴木	全て再診のみ
呼吸器科		(喘息外来を兼ねる 吉村)			西坂	若山	※禁煙外来は午後のみ
		網谷	西坂	花岡	中村	(喘息外来を兼ねる 吉村)	
		花岡	中川	若山	長野	中川	
		中村	長野		網谷(予約)		
		(禁煙外来 若山)	岡本	吉田	多木		
呼吸器外科		(セカンドオピニオン外来 中出)	中出	渡辺		川邊	※手術相談外来は予約制
産婦人科		午前:川島 午後:松尾	西川	古田	午前:頼 午後:河原	泉	午後は再診のみ ※月～金曜日 助産師外来あり
		泉	松尾	河原	吉岡	担当医	
泌尿器科		岩村	西村(紹介)	前野	西村	岩村	全て予約制
		河野	住吉	担当医	前野	河野	全て予約制
		岩村	住吉	前野	(前立腺外来 西村)		
		河野			前野	住吉	
眼科		高橋(初診)	担当医	石井(初診)	担当医	岡本(初診)	〈火・木〉 初診は紹介のみ 再診は予約のみ
		秋元	担当医	秋元	担当医	田口	
		廣井	中川	田口	中川	高橋	
		岡本		廣井		石井	
耳鼻咽喉科 頭頸部外科		午前:田口 午後:石井		午前:高橋 午後:岡本 (未成年外来 高橋)	(紹介のみ 担当医)	廣井	予約制 ※午後の専門外来は再診のみ。初診は、各専門外来日の午前中に、専門医の診察をお受けください。
		古田	平塚	小山		古田	
		小山	小山	山原		山原	
皮膚科		立花	立花	堀口(予約)	立花	加畑	全て予約制
		赤木	加畑	赤木	加畑・赤木	太田	
形成外科		重吉	岩井	重吉	内藤	内藤	
精神神経科		吉田	早川	吉田	早川	吉田	
		久保	清水	清水	植野	早川	
		清野	担当医	土戸	担当医	清野	
放射線診断科		藤堂	塩崎	前倉	小山	岡田	診断
		前倉	(外科)	塩崎	(外科)	福富	検査(透視)
		岡田・小嶋	藤堂・小山	小山・岡田	小嶋・塩崎	前倉・小山	検査(CT)
		小山	前倉	福富	岡田	大谷	検査(MRI)
		塩崎	岡田	(循環器科)	大谷	藤堂	検査(RI)
放射線治療科		小山・前倉	福富・塩崎	塩崎・前倉	岡田・前倉	大谷・塩崎	検査(CT)
		岡田	小山	岡田	塩崎	前倉	検査(MRI)
		塩崎	前倉	藤堂	小山	岡田	検査(RI)
		石垣	中村	担当医	中村	石垣	
		中村	石垣	担当医	石垣	中村	
歯 口腔外科		井上	杉立	本橋	担当医	担当医	全て初診(紹介)のみ
		杉立	本橋	杉立	手術	杉立	全て再診(予約制)

- 受付時間(月～金) (診療開始は午前8:45からです)
 - 初診の方/月曜日～金曜日 8:30～11:30 ●再診の方/月曜日～金曜日 8:00～11:45
- 休診日 ●土曜日・日曜日・祝日・5月1日(本社創立記念日)・12月29日～1月3日
- 診察券 ●診察券は全科共通で使用いたしますので、ご来院時には必ずお持ちください。
- ご面会(病状によってこの限りではありませんが、必ず病棟の看護師にご相談ください)
 - 平日/14:00～19:00 休診日/10:00～12:00、14:00～19:00 ●小児病棟(平日・休日とも)/14:00～19:00
- 保険証等 ●保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

■平成22年12月1日より
当院は敷地内全面禁煙です



当院は平成22年12月1日より、敷地内全面禁煙を実施します。ご理解とご協力をお願いします。

異動等により変更になる場合があります。
下記ホームページの各診療科のご案内をご覧ください。
各科外来にお問い合わせください。

お問い合わせ/TEL:06-6774-5111(代表)
(大阪赤十字病院) <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>
(赤十字全般) <http://www.jrc.or.jp/>